



## 相次ぐ事故・事象、揺らぐ安全の根幹

### 6月5日 豊田車両センター構内

手回しした転てつ器の二度閉め忘れによって転換不良が発生、遅延・運休が発生。

### 6月27日 高尾駅構内

入区作業中、レール上に放置されていた手歯止めと衝撃。12両化工事に伴う線路閉鎖工事に使う手歯止めを落としたと思われる。

### 6月29日 高尾駅構内

転てつ器が反位状態のまま軌陸車を通過させ脱線。本線の運転には支障ないものの、出区出来ない列車が発生。

過去には人身事故の救出活動中にも関わらず隣接線へ列車を進入させた事象や、保守車両を誤った区間へ進入させる事象が発生し、原因究明・再発防止と安全風土の再確立に向け団体交渉を開催してきました。

しかし、事故・事象の連鎖は後を絶ちません。3月には川越線指扇～南古谷間でデッドロックが発生した他、6月16日には内房線上総湊～竹岡間で協力会社社員が感電事故の犠牲になるという、痛ましい事故が発生してしまいました。

会社は「変革と融合」「守りから攻めへのモードチェンジ」といった言葉を繰り返して効率化を最優先にし、安全や教育をおざなりにした結果と言わざるを得ません。

鉄道会社として何よりも優先される「いのちを守る安全風土」をつくるためにはどうあるべきか、全ての仲間と議論しよう！